

第2章 環境の現状と対策

(基本目標3) 多様で豊かな自然の恵みを次世代へつなげるまち

1. 生物多様性の保全・向上

1-1 希少動植物の保護

(ア) コシガヤホシクサ野生復帰事業

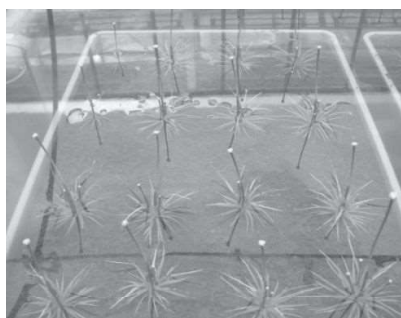
コシガヤホシクサは昭和13年に旧越ヶ谷町の元荒川付近で発見され、翌年新種のホシクサとして発表されました。このとき、発見地にちなんでコシガヤホシクサと命名されましたが、その後越谷市周辺では見られなくなりました。昭和50年には、茨城県下妻市の砂沼という農業用のため池で再発見されましたが、ため池の環境の変化により平成6年に絶滅してしまいました。しかし、残されていた種子から、国立科学博物館筑波実験植物園などの関係機関により、現在は砂沼での野生復帰の取り組みが進められています。

市では、「越谷」の名を持つ貴重な植物であるコシガヤホシクサを越谷で野生復帰させる取り組みを進めています。平成23年から、国立科学博物館筑波実験植物園から種子の提供や技術指導を受け、農業技術センターにおいて種子増殖のための栽培を行っています。また、専門家や関係機関との検討・協議を進め、かつてコシガヤホシクサが発見されたと考えられる葛西用水路で播種実験を行い、野生復帰に必要な生育条件を調査しています。

野生復帰事業の経過

年度	概 要	栽培の概要			播種実験の概要	
		播種数	回収種子数	特別展示	播種数	試験区
23	栽培の開始	5千粒	45万粒	1ヶ所		
24	野生復帰検討会議の設置	6万粒	136万粒	1ヶ所		
25	野生復帰候補地環境調査 野生復帰技術開発計画策定	3万粒	65.9万粒	7ヶ所		
26	葛西用水での播種実験開始	3万粒	140万粒	9ヶ所	21万粒	4ヶ所・31㎡
27	中学校との協力事業開始(中央・東中)	3万粒	184万粒	9ヶ所	120万粒	12ヶ所・64㎡
28	葛西用水に見本園を設置し、開花に至る	3.3万粒	144.3万粒	7ヶ所	174万粒	5ヶ所・47.7㎡
29	平和橋付近に見本園を増設、開花に至る	1万粒	78.9万粒	7ヶ所	137万粒	1ヶ所・8.8㎡
30	試験区にて初めて開花に至る	1万粒	5.3万粒	7ヶ所	72.9万粒	1ヶ所・12㎡
令和元	試験区の環境条件を変更、開花に至る	1万粒	49万粒	5ヶ所	21.1万粒	1ヶ所・36.7㎡

※種子の数は概数



農業技術センター内で栽培されているコシガヤホシクサ



葛西用水路での播種実験

(イ) シラコバト保護事業

シラコバトは、昭和31年に「越ヶ谷のシラコバト」として国の天然記念物に、昭和40年に「県民の鳥」に、昭和63年には「市の鳥」に指定され、多くの市民に親しまれてきました。しかしながら、市街化によるねぐら・営巣地となる屋敷林の減少、主要な採餌場所となる耕作地や畜舎の減少、畜舎への侵入遮断などによりその生息数が激減しています。

市では、埼玉県に協力し、シラコバトの生態に詳しい専門家、シラコバトを飼育している動物園、関係行政機関等とシラコバト保護対策検討会議に参加するとともに、平成26年3月に策定された「埼玉県シラコバト保護計画」に基づき、保護事業を実施しています。キャンベルタウン野鳥の森では、平成20年よりシラコバトの保護増殖を行っており、平成26年10月に市内で初めて飼育増殖に成功しています。また、平成27年度には埼玉県の補助金を活用し、シラコバト保護増殖施設(木造平屋建て 26.44 m²)を整備しています。令和元年度末時点での飼育数は25羽となっています。



野鳥の森で初めて孵化したヒナ



シラコバト保護増殖施設

(ウ) キタミソウ保全事業

キタミソウは、北海道の北見地方で発見され、その名がついたと言われています。越谷市内では、昭和25年に発見され、その後絶滅したとされていましたが、昭和53年にト沢氏によって、市内の葛西用水路で再発見されました。一年草で種子により繁殖し、花は非常に小さく1~2mm程度の白色、葉はスプーン型の長楕円形で柄を含めて2cm程度です。越谷では、用水の水が落ちた後の湿った川底で生育し10~12月と3~4月に花が見られます。市内では、葛西用水と古利根川に生育していますが、中でも、越谷市役所前の葛西用水路瓦曽根溜井に多く見られます。



キタミソウ

キタミソウの自生地は、行田市、春日部市、さいたま市、草加市、三郷市等でも確認されていますが、その中でも、葛西用水路瓦曽根溜井は、最大の自生地になっています。埼玉県レッドリストでは、野生での絶滅の危険性が高い、絶滅危惧IB類に分類されています。

平成12年度には「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」に基づく「県内希少野生動植物」に第1次指定され、捕獲や採取する場合はあらかじめ県への届出が必要となっています。また、葛西用水路瓦曽根溜井では毎年、市民団体により「キタミソウ観察会&クリーン作戦」が行われています。

第2章 環境の現状と対策

(エ)フジバカマ保全事業

フジバカマは、秋の七草の1つに数えられ、河川敷などの明るく湿った草地に生育する多年草です。近年、湿地の埋め立てや河川敷の開発などで生育地が激減し、埼玉県レッドリストでは、準絶滅危惧種に指定されています。市内では元荒川河川敷の一部に自生地がありますが、その他に、自生地付近の公園の保護ゾーンにおける保全作業の実施、市内の小学校での保全事業等が行なわれています。



フジバカマ

1-2 鳥獣保護

「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に基づき、越谷市内では、宮内庁埼玉鴨場周辺 145ha、大吉調節池周辺 10.3ha が「鳥獣保護区」に指定され、捕獲が禁止されています。その他の地区でも、法律に基づき狩猟鳥獣の種類と、狩猟期間及び捕獲数量の制限などが定められています。また越谷市全域は、銃猟禁止区域に指定されています。

(ア)傷病野鳥保護治療・傷病野鳥里親事業

傷ついたり病気になったりして衰弱し、保護が必要な野鳥に適切な治療を施し、山野で生息できる状態に回復するまで保護飼養し、自然に復帰させる事業を平成3年度より市内の獣医師と市民等の協力により実施しています。里親登録者数は、令和元年度末で個人12名です。

傷病野鳥の保護数(令和元年度)

スズメ	2	アオバト	1
カワウ	1	ドバト	1
ムクドリ	1	アカショウビン	1
メジロ	1	猛禽類	1
チョウゲンボウ	2	種類不明	1

保護実績(年度別)

年度	保護数	治療数	放鳥数	死亡数	里親依頼件数
3～10	453	449	227	216	52
11～20	800	680	356	367	87
21～25	210	176	87	111	19
26	33	18	11	9	4
27	30	17	20	8	0
28	22	14	9	11	4
29	35	31	16	14	5
30	24	22	14	10	2
R1	12	8	8	3	0
合 計	1,619	1,415	748	749	173

(イ)有害鳥獣対策

埼玉県内では、野生化したアライグマやハクビシンによる、農作物への被害や、人家に住み着く等の生活被害が急増しています。また、カラスによる人間への攻撃被害も多く寄せられています。市ではこのような被害などにより捕獲の必要があると認められた場合、申請に対し捕獲の許可をしています。また、市では平成21年度より埼玉県アライグマ防除実施計画に参加しており、令和元年度は20頭捕獲しています。

捕獲鳥獣数(過去5年間)

年度	捕獲件数					
27	ドバト(卵)	3	ハクビシン	18	アライグマ	6
	ドバト	35				
28	カラス	1	ハクビシン	21	アライグマ	12
	キジバト	2				
29	ドバト	69	スズメ	4	ハクビシン	19
	ドバト(卵)	5	カラス(卵)	2	アライグマ	21
30	ドバト	24	ハクビシン	12	アライグマ	31
R1	ドバト	7	ハクビシン	28	アライグマ	20
	カラス	5	カラス(卵)	12		

(ウ)特定外来生物

特定外来生物とは、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすおそれがあるため、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)」により指定された外来生物のことで、飼養、栽培等が規制されております。越谷市内では下記の特特定外来生物の目撃情報が寄せられております。

越谷市内で目撃情報のあった特定外来生物

植物(4種)	哺乳類(3種)	魚類(5種)
オオキンケイギク	アライグマ	カダヤシ
アレチウリ	ヌートリアまたはマスカラット(未確定)	オオクチバス
オオフサモ	両生類(1種)	チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ)
ミズヒマワリ	ウシガエル	ブルーギル
昆虫類(1種)	爬虫類(1種)	アリゲーターガー
クビアカツヤカミキリ	カミツキガメ	

1-3 いきもの調査

越谷市では、市内のいきものの生息状況から見た越谷の自然環境の現状を把握することを目的に、市民調査員の協力により、平成9年度から5年ごとに「越谷市ふるさといきもの調査」を実施しています。

平成29年度からの新たな調査では、市内環境や調査に係る状況が変化したことから、調査方法や指標生物などの見直しを行いました。従来のメッシュ法から、環境省の「いきものログ」を活用した方法を用いるほか、指標生物30種を指定しました。現在、「越谷市いきもの調査2017-2020」として、春期・夏期・秋期・冬期の調査期間を定め、4年に渡って実施しています。

○一般調査

市内在住・在学・在勤または市内で活動している方を対象に、調査員を募集し、期間内での調査を行います。

(令和元年度の実施内容)

調査期間:令和2年1月1日～3月31日(冬期)

参加者:104名

報告数:1923件

○一斉調査

公園や調節池に限定し、指標生物以外も含めた区域内の生物を調査します。令和元年度は葛西用水路周辺で一斉調査を行いました。

第2章 環境の現状と対策

(令和元年度の実施内容)

日 時:令和2年1月18日(土)午前9時00分～11時30分

場 所:葛西用水路周辺

参加者:39名

いきもの調査 2017-2020 報告件数

番号	分類	指標生物名	平成29年度報告件数 夏期(7～9月)	平成30年度報告件数 秋期(10～12月)	令和元年度報告件数 冬期(1月～3月)
1	樹木(ヤナギ類)	ヤナギ類		143	
2	樹木(カバノキ科)	ハンノキ		43	93
3	草本(イネ科)	ヨシ	283	148	73
4	草本(タデ科)	ミゾソバ	13	42	
5	草本(スミレ科)	スミレ類			
6	草本(オオバコ科)	キタミソウ		23	25
7	草本(ゴマハグサ科)	ムラサキサギゴケ			
8	草本(ウリ科)	アレチウリ	120	73	
9	草本(キク科)	カントウヨメナ		133	
10	草本(キク科)	在来タンポポ			144
11	鳥類(カモ科)	カルガモ	211	210	180
12	鳥類(カモ科)	オナガガモ			8
13	鳥類(サギ科)	アマサギ			
14	鳥類(サギ科)	コサギ	205	114	114
15	鳥類(クイナ科)	オオバン		97	168
16	鳥類(カモメ科)	ユリカモメ		22	28
17	鳥類(カモメ科)	コアジサシ	23		
18	鳥類(カワセミ科)	カワセミ	57	45	56
19	鳥類(キツツキ科)	コゲラ	29	48	25
20	鳥類(モズ科)	モズ	58	175	146
21	鳥類(シジュウカラ科)	シジュウカラ	137	157	161
22	鳥類(ヒバリ科)	ヒバリ			15
23	鳥類(ツバメ科)	ツバメ(巢)	274		26
24	鳥類(メジロ科)	メジロ	10	44	167
25	鳥類(ヨシキリ科)	オオヨシキリ	30		
26	鳥類(ヒタキ科)	ツグミ		19	357
27	昆虫類(シロチョウ科)	モンシロチョウ	319	172	
28	昆虫類(シロチョウ科)	スジグロシロチョウ	12	7	
29	昆虫類(アゲハチョウ科)	アオスジアゲハ	369		
30	昆虫類(アゲハチョウ科)	ナガサキアゲハ		3	
31	昆虫類(タテハチョウ科)	ツマグロヒョウモン		107	
32	昆虫類(ジミチョウ科)	ミドリシジミ			
33	昆虫類(クワガタムシ科)	コクワガタ	2		
34	昆虫類(セミ科)	ヒグラシ	8		
35	昆虫類(セミ科)	クマゼミ	42		
36	昆虫類(カマキリ科)	カマキリ類	93	52	132
37	昆虫類(トンボ科)	シオカラトンボ	325		
38	昆虫類(カトンボ科)	ハグロトンボ	92		
39	昆虫類(イナゴ科)	イナゴ類	58	77	
40	昆虫類(バッタ科)	ショウリョウバッタ	215	56	
41	昆虫類(バッタ科)	トノサマバッタ	116	82	
42	昆虫類(キリギリス科)	クビキリギリス		25	
43	は虫類	ヘビ類	14	1	
44	は虫類	カメ類	89	30	
45	両生類(アカガエル科)	トウキョウダルマガエル	19		
46	両生類(アマガエル科)	ニホンアマガエル	101	40	
47	両生類(ヒキガエル科)	アズマヒキガエル			2
48	魚(メダカ科)	メダカ			
49	貝類	タニシ類			
50	ほ乳類(イヌ科)	タヌキなど	6	3	3
調査対象種			30種	30種	20種

※着色部分が時期別の調査対象種となります。

2. 緑の保全・創造

2-1 (仮)平方自然観察公園

市内平方地内にある雑木林(平方 853-1 外、2440 m²)は平成 5 年度より土地所有者の厚意により借用し、自然観察林として活用していましたが、平成 24 年度に市が用地の取得を行い、市内では貴重な、まとまった樹林地として保全しています。定期的な草刈や清掃活動を行い、維持管理に努めています。



(仮)平方自然観察公園

2-2 こしがや緑のオアシス2020プロジェクト

緑のカーテンや生垣・緑の庭、屋敷林等の創造・維持管理をしていく活動の総称を「緑のオアシス」とし、市と学校・地域コミュニティ・事業者等が連携し、身近な取組から環境問題について考え、実践し、取組の輪を地域に広げていくことを目的とした事業です。平成 25 年度からスタートし、2020 年(令和 2 年)までに、「2020のエコな取組」の実施を目標としています。令和元年度は、大相模地区を重点取組地区とし、市民や小学校の協力により、ゴーヤの苗配布、こしがや緑のオアシスの募集・認定を行いました。

○小学生によるゴーヤの苗作りと配布

大相模小学校の児童にゴーヤの苗を育ててもらい、運動会に合わせて、地域の方々 167 人に配布しました。

○緑のカーテン講習会

緑のカーテンを育て、緑のオアシスに応募して緑のすばらしさを地域に広めていただくため、専門家を講師に招き、「緑のカーテン講習会」を開催し、受講者 20 人にゴーヤの苗を配布しました。

○「こしがや緑のオアシス」の認定

大相模地区と「緑のカーテン講習会」受講者を中心に 7 月 1 日から 8 月 31 日までの期間に募集を行いました。地区コミュニティ推進協議会の協力と、越谷市環境推進市民会議(自然環境委員会)の推薦により多くの応募をいただき、審査の結果、令和元年度は 11 件を「こしがや緑のオアシス」として認定しました。



認定された緑のオアシスの写真

第2章 環境の現状と対策

〇こしがや緑のオアシス認定式

「こしがや緑のオアシス」に認定された方に対し、令和2年2月15日に越谷市中央市民会館にて認定式を行いました。当日は、認定証と認定プレートをお渡しするとともに、各部門の代表者から取組の発表をしていただきました。なお、この催しは第16回越谷市環境大会のプログラムの一部として開催しました。



こしがや緑のオアシス認定プレート



こしがや緑のオアシス認定証



認定式の様子

「こしがや緑のオアシス」の認定件数（件）

年度	募集地区	協力校	緑のカーテン	緑の庭・生垣	屋敷林	緑の畦	その他	年度合計
25	大袋・大沢・蒲生	大袋東小・大沢北小・蒲生南小	17	14	1	0	2	34
26	桜井・北越谷 (緑のオアシスパートナー)	平方小・北越谷小	82	13	7	0	2	104
27	荻島 (緑のカーテン講習会)	荻島小	44	8	12	0	1	65
28	新方・川柳 (緑のカーテン講習会)	弥栄小・川柳小	36	12	16	0	0	64
29	越ヶ谷・増林 (緑のカーテン講習会)	城ノ上小・東越谷小	21	5	2	2	2	32
30	出羽・南越谷 (緑のカーテン講習会)	宮本小・南越谷小	13	6	0	2	0	21
R1	大相模 (緑のカーテン講習会)	大相模小	4	3	3	0	1	11
累計	13地区	13校	217	61	41	4	8	331

〇剪定枝持込支援

平成28年度に緑のオアシス認定者を対象に実施したアンケート調査で、管理により発生する枝の受入についての要望が多く寄せられました。そのため、平成29年度より、東埼玉資源環境組合の協力の下、緑のオアシス認定者に限り剪定枝搬入の重量制限を解除しています。令和元年度は、4件について支援を行いました。

2-3 公共施設の屋上緑化

越谷市の一部の公共施設では屋上緑化を行い、夏の日射の軽減の推進を行っております。

屋上緑化の整備状況

整備年度	施設名	面積(㎡)	植栽の種類
13	本庁舎	66	ヘデラ・アジュガ・セダム
14	消防庁舎	89	マンネングサ(一部改修)
14	ゆりのき荘	600	マツバギク他
14	中央中	240	セダム・ラベンダー・シバ他
15	本庁舎	468	マンネングサ
18	城ノ上小学校	68.4	パンジー・ペコニア
19	リサイクルプラザ啓発棟	397	キチジョウソウ・ヒベリカム他
19	本庁舎(一部改修)	419	セダム(全体緑化面積 559 ㎡)
20	大相模地区センター	163	ヘデラ
21	消防署蒲生分署	36	ヘデラ
22	障害者就労訓練施設しらこぼと	362	シバ
23	本庁舎(一部改修)	272(改修)	ヒメツルソバ(全体面積 559 ㎡)
24	児童発達支援センター	211	シバ
26	保健所	237	クルメツツジ・サツキ・トウタンツツジ・シバ

基本目標別の現状と対策
(基本目標3) 多様で豊かな自然の恵みを次世代へつなげるまち